

ボーリングマイスター 『匠』東北に認定されて

(合) 末永ボーリング 末永 好治



この度(株)復建技術コンサルタント様の推薦により(一社)東北地質調査業協会様から、ボーリングマイスター(匠)東北に認定していただき身に余る光栄と感謝する次第です。

私自身としては、ボーリング技術が特段優れているとは思っておらず、年齢や経験年数にご配慮頂いた結果だと思っております。ただ、復建技術コンサルタントに入社以来、諸先輩方の指導の基において、失敗や多数の困難な現場を数多く体験したことを糧に、約50年の年月を無事に過ごすことができたことに感謝しております。

現在、掘進技術の向上やボーリングマシン・使用する機材の改良により、昔とは比べものにならないほど、品質は向上しております。一方、現場への機材搬入のほか、周辺地域や環境への配慮も厳しくなっており、何より担い手の減少が喫緊の課題と考えております。今回認定されたボーリングマイスターとして、現場技術者が不測の困難に遭遇する事もあるかもしれませんので、多少なりともこれまで培った自分の経験を伝えることができれば幸いと思っております。

現在の仕事については、自分的には年齢と共に余裕が多少なりともなくなってきていることを実感し、仕事と家庭の両立そして健康管理に気を付けて、ボーリング調査の仕事を行っております。

特に平成23年に起きた東日本大震災により、福島第一原発の事故で避難を余儀なくさせられた福島県大熊町、双葉町の除染の処分場建設に関する地質調査としてボーリングの仕事に従事しております。私自身、大熊町出身ということもあり、早期復興に寄与することが大切なことと感じ、使命感を持って携わっております。しかし、放射線管理の下、防護服のタイベックスーツやマスクを着用して夏場の30℃超えの作業は能率も半減し、水分補給や食事も制限される状況は、い

くら経験を積んだ私でもかなりの負担は否めないのが本音です。それでもなんとか元請け会社の人や助手、他のボーリング作業員からの協力により成し遂げる事ができました。

今後は、協会様の認定を受けて益々謙虚な気持ちで、まずは自分の助手を早く一人前のオペレータになれるよう指導していきたいと思っております。また、技術向上のための方法や現場でのトラブルが発生した時の対処の仕方、安全管理や環境管理においてどんな所にリスクがあるか等、それらについても伝達できるように、同業者の交流や親睦を深めて、さらなる自己研鑽に努めていきたいと思っております。

最後に、この度はこのような機会を与えていただき協会様や業者の方へ厚くお礼申し上げますと共に今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしく願います。

本当にありがとうございました。



福島県大熊地区の被災状況



中間貯蔵(大熊地区)のボーリング作業状況

栗原地下工業 栗原 常男



このたび中央開発株式会社の推薦を受け、(一社)東北地質調査業協会様より「ボーリングマイスター(匠)東北」の認定を頂き大変光栄に思います。

何もわからずにこの仕事に従事してから35年以上がたち、道もない山中に資材を運び組み立て、大地に孔を開けては何事も無かった様に完成撤去する。この繰り返しを長年続ける事ができたのは、諸先輩や仕事先諸氏の御指導の御陰だと感謝いたします。

私は、常に仕事を楽にこなすことばかり考え、様々な工夫を実践してきたつもりですが、その延長線上に良質のコア採取がありました。というのも、最終的にロッドの上げ下げが少なく、しかも早く仕事が終わるからです。そのためには、コア詰まりが無いこと・スライムを多く発生させないこと・水圧を上昇させないこと……

これをどうすれば良いかを考え続ける、これが私のボーリングオペレーター人生「本末転倒の苦勞」の始まりで、今現在も悩みの尽きない日々が続いています。

一方で、振り返ればこんな自分の考えに共感を持っていただける元請けの方々や各メーカー技術者の皆様と出会うことができ、多大なご支援、ご指導を賜ることができました。

例えば、当時最新だった気泡水ボーリングの資機材を早い段階で使用する機会をいただきました。このときは、飛躍的に良い精度でコアを採取できたため非常に驚きました。まさに目標とする「楽に……」に近づけた瞬間だと思ったことを覚えています。

また、日々の中では送水量を絞った少水量ボーリングで工夫を重ね、ツールの進化もあると思いますが、従来のコアよりも良質なコアを採取できるようになりました。これについては、様々な意見をいただくことが更なる発展につながるものと思い、数年後に全地連フォーラムで発表させていただきました。その後、様々な現場で少水量ボーリングによるコア採取を見せて頂き、多くの刺激を頂戴したのと同時に、「この仕事のやりがいにも繋がる何か」を実感いたしました。

最後になりますが、私自身、これまで様々な場面で皆様が必要とされ、信頼され、期待されていると感じることで、実力以上の仕事ができ、この仕事を続けるモチベーションになってきたと思います。昨今、若手の育成が業界全体の課題となっておりますが、若手の方々が皆様に必要としていただくこと、信頼され期待をかけていただくことが一番大切ではないでしょうか。

今後も、「達成感」や「やりがい」のあるこの仕事を続けていきたいと思えます。そして、皆様に常に必要としていただけるよう日々精進してまいります。

この度は、このような機会を頂きまことにありがとうございました。



某ダム現場における厳冬期でのボーリング作業状況

(有) 八戸地下開発工業 **竹岸 誠**



このたびは「ボーリングマイスター（匠）東北」に認定頂き、まことにありがとうございます。ボーリングマイスター匠制度が昨年出来たことは知っていましたが、私を認定して頂けるとは夢にも思っておりませんでした。これもひとえに仕事への取り組み方、向き合い方を教えて下さった先人の方々、一緒に現場をこなした協力会社の先輩の方々、自分のこだわりに付き合ってくれた同僚、経験を積ませてもらった会社のおかげだと感謝しております。

ふりかえれば、現場で毎日汗を流しあつという間の30年でした。上手く行かない現場も数多くありましたが、その都度、手を差し伸べて頂いたりヒントを頂いたり、沢山助けて頂きながら現場を重ね、自分の引き出しを増やす事が出来ました。仕事での出会いに只々感謝しかありません。私たちの仕事は目に見える物を相手にするものではありません。まして同じ孔もありません。自分の対峙する孔が今どのような状況にあるのか、常に想像力を駆使しながら仕事をしています

私はここ10年ほど鉱山の埋蔵量調査を、400m程度のワイヤーライン工法で掘らせてもらっていますが、同じ山でも湧水・逸水・崩壊・張り出し等様々な孔内状況の変化に毎年頭を悩ませています。ですが毎年新しい発見や、気づきが数多くあります。その孔から発信される情報を聞き逃さないように、周辺機器や機械振動などのロッドより得られる多くの孔内情報に気をつけています。

私は今年で54歳になりましたが、業界ではやっと中堅技術者を卒業したといったところでしょうか。前を見ればまだまだ学ぶべき先輩たちが数多くいらっしゃいます。後ろを見ればこれから成長していく後輩たちも大勢います。ひたむきに技術を磨き、自分の現場で得た知識を若手に引き継ぐことを、これからの自分の仕事に付け加え、新しい出会いを楽しみにしつつ仕事をして行きたいと思いますが、技術の伝承であるボーリング技術・知識の引き継ぎも難しいものがあると思います。技術・知識をデータ化出来れば簡単なのですが、目に見えない地層を相手に想像しながら仕事を進めていくため、検尺に向かう道筋も多々あると思います。ケーシング設置深度やビット・ツールの選択、泥水の使用や添加剤の種類・送水量・回転数および給圧など人によって違います。これといった正解がないためデータ化が難しい仕事だと思うからです。

近年の掘削ツールの進歩はめざましいものがあります。今後さらに向上心・探求心を持ち続けながら仕事に向き合っていくかなければと身が引き締まる思いです。

仕事は辛い現場が多く、若者確保が難しい状況ですが、私たちが魅力ある業界にしていければと思っております。

最後になりますが、(一社)東北地質調査業協会様のさらなる飛躍と、ひとりでも多くの技術者が「ボーリングマイスター（匠）東北」に認定されることを願っております。